



メディアの方にも特別公開
～日本学術振興会賞受賞記念～ 第5回 ACADEMIC CAFE

< Zoom 開催 > 大阪市立大学の研究者の世界

◇小柳 光正教授 (理学研究科) ◇齋藤 幸平准教授 (経済学研究科)

10月15日(金)に、日本学術振興会賞受賞の小柳 光正教授と齋藤 幸平准教授による第5回「ACADEMIC CAFE」を実施します。

お二人の講演に引き続き、荒川 哲男学長を交えての座談会も行いますので、ぜひ取材をご検討ください。

【 Zoom 開催 第5回 ACADEMIC CAFE 】

■日 時：2021年10月15日(金) 13:00～15:00

■出演者：大阪市立大学大学院 理学研究科 教授 小柳 光正
大阪市立大学大学院 経済学研究科 准教授 齋藤 幸平
大阪市立大学 学長 荒川 哲男

■申込：大阪市立大学 広報課 永田宛にメールでお申し込みください。

E-mail : t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

①ご所属 ②氏名 ③お電話番号 ④URL 送付用のメールアドレス をご記載ください。

■申込締切：10月14日(木) 17:00

【プログラム】13:00～ 開会の挨拶 櫻木 弘之 副学長
13:10～ 講演 小柳 光正 教授「生物多様性に学ぶ巧みな光の使い方」
13:50～ 講演 齋藤 幸平 准教授「マルクスの抜粋ノートと人新世の危機」
14:35～ 座談会 荒川 哲男 学長・小柳 光正 教授・齋藤 幸平 准教授

日本学術振興会賞

創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を顕彰し、その研究意欲を高め研究の発展を支援するために2004年度に創設されました。

小柳 光正教授は、2017年度に「動物界における光受容の分子基盤の進化・多様性の研究」の業績を評価されて受賞、齋藤 幸平准教授は、2020年度に「マルクス経済学のエコロジー的転回に関する研究」の業績を評価されて受賞しました。

【問い合わせ先】

大阪市立大学 広報課 担当：上野・永田

TEL : 06-6605-3411 E-mail : t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp



大阪市立大学の研究者の世界

第5回

ACADEMIC CAFE

2021 10.15 Fri Zoom開催
13:00~15:00

参加方法: Zoomウェビナーにて開催(URLより参加)

~日本学術振興会賞 受賞記念~

※日本学術振興会賞は、我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるために創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し、その研究意欲を高め、研究の発展を支援する目的で設置された賞です。

Episode1. 生物多様性に学ぶ巧みな光の使い方



小柳 光正
理学研究科 教授

光は生物にとって重要な環境情報であり、多くの動物は光を視覚や体内時計の調節などのさまざまな生命活動に利用している。それら動物の光利用のしくみは目的や動物によって多種多様であるが、光をキャッチする分子、すなわち光受容タンパク質が単一起源であることから、光受容タンパク質の進化を起点とすることで、動物の光利用のしくみを動物界横断的に調べることができる。この点に着目し、さまざまな動物の多様な光受容タンパク質の機能解析を行った結果、動物の巧みな光の使い方が見えてきた。

Episode2. マルクスの抜粋ノートと人新世の危機

現代資本主義の矛盾が格差や気候危機として現れる中で、カール・マルクスへの再評価が進んでいる。新しい『マルクス・エンゲルス全集』(MEGA)の刊行によって、これまで見過ごされてきた環境問題へのマルクスの視点が浮き彫りになっているのだ。マルクスのエコロジーを基礎として、「人新世」の未来を考えたい。



齋藤 幸平
経済学研究科 准教授

第5回アカデミックカフェは、日本学術振興会賞を平成29年度に受賞された小柳先生と令和2年度に受賞された齋藤先生による競演です。本学から社会科学系、自然科学系の2人の先生方が、この賞を受賞されたことは誇らしく、若手の後輩たちも後に続いて欲しいですね。当日はゼミ生になったつもりでアカデミックカフェを一緒に楽しみませんか？



荒川 哲男
学長

- プログラム
- 13:00~ 開会の挨拶
櫻木 弘之 副学長
 - 13:10~ 講演
小柳 光正 教授
 - 13:50~ 講演
齋藤 幸平 准教授
 - 14:35~ 座談会
荒川 哲男 学長
小柳 光正 教授
齋藤 幸平 准教授

All religions, arts and sciences are branches of the same tree. Albert Einstein

われわれは、すべてのものを包括する統一
的な知識を求めようとする熱望を、先祖代々
受け継いできました。学問の最高の殿堂に
与えられた総合大学 (university) の名
は、古代から幾世紀もの時代を通じて、総
合的な姿こそ、十全の信頼を与えられるべ
き唯一のものであったことを、われわれの心
に銘記させます。しかし、過ぎる100余年の
間に、学問の多種多様の分枝は、その広さ
においても、またその深さにおいてもすま
ず拡がり、われわれは奇妙な矛盾に直面す
るに至りました。われわれは、今までに知ら
れてきたことの総利を結び合わせて一つの
全一的なものにするに足る信頼できる素
材が、今ようやく獲得されはじめたばかりで
あることを、はっきりと感じます。ところが一
方では、ただ一人の人間の頭脳が、学問全
体の中の一つの小さな専門領域以上のもの
を十分に支配することは、ほとんど不可能
に近くなってしまったのです。
この矛盾を切り抜けるには (われわれの真
の目的が永久に失われてしまわないように
するためには)、われわれの中の誰かが、
諸々の事実や理論を総合する仕事に思い
きって手を着けるより他には道がないと思
います。
シュレーディンガー：岡小天；鎮目恭夫 訳。
「生命とは何かー物理的にみた生細胞」
まえがきより抜粋

